

高温登熟性に優れ、良食味でイネ縞葉枯病に強い水稻新品種「とちぎの星」

高温による品質低下が起こりにくく、良食味、多収で耐倒伏性に優れ、イネ縞葉枯病抵抗性を有する中晩生品種

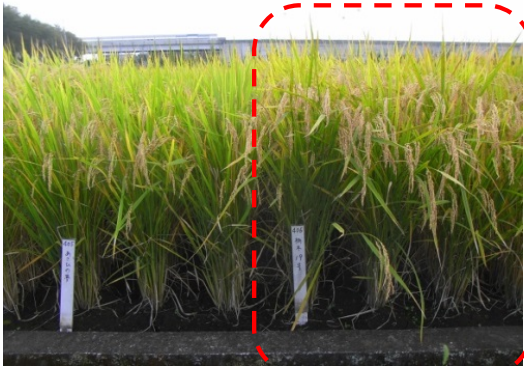
研究開発の背景

- ・出穂期以降の高温による白未熟粒および胴割粒等の品質低下、ならびに県中南部を中心にヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯病が問題となっている。
- ・麦作に影響しないよう、従来品種よりも早く収穫できる品種が求められている。

研究成果の内容

従来より成熟期が6日早く、イネ縞葉枯病の抵抗性を有する多収品種

従来品種よりも成熟期が6日早く、跡作の麦作への影響が少ない。



左:あさひの夢、右:とちぎの星



高温下で白未熟粒が発生しにくい
(左:あさひの夢、右:とちぎの星)

| | 成熟期 | 精玄米重 (kg/a) | 縞葉枯病 | いもち病 | | 高温登 熟性 | 1等米 比率* |
|-------|------|----------------|------|------|-----|-----------|------------|
| | | | | 葉 | 穂 | | |
| とちぎの星 | 9/24 | 69.8 | 抵抗性 | 強 | やや強 | 強 | 95.6 |
| あさひの夢 | 9/30 | 67.0 | 抵抗性 | 中 | やや強 | 中 | 94.1 |
| コシヒカリ | 9/15 | 61.1 | 罹病性 | 弱 | やや弱 | やや強 | 92.4 |

水稻奨励品種決定調査(2007~2010年の平均)、*農水省HP:農産物検査結果(2012~2015年の平均)

期待される効果

- ・高温条件下での1等米比率向上および極良食味を生かした差別化販売による所得向上。
- ・イネ縞葉枯病による減収回避ならびに病虫害防除回数の削減、減肥栽培による省力低コスト化。

開発機関: 栃木県農業試験場、予算区分【県単独予算】

良食味、多収で、イネ縞葉枯病抵抗性のため、安定生産を実現

○白未熟粒などの品質低下が起こりにくく、食味の良さで評価が高い



27年産「米の食味ランキング」特A評価

日本穀物検定協会による平成27年産米の食味ランキングで最高評価「特A」を獲得

導入メリット

○収量と品質の向上

単収は+4~14%、1等米比率は+1.5~3.2%
(あさひの夢、コシヒカリとの比較)

○地域ぐるみの品種転換により、媒介虫ヒメトビウンカのウイルス獲得を阻止

種子は栃木県米麦改良協会から供給され、県外許諾は可能。

導入をオススメする対象

高温による品質低下が問題となっている地域およびイネ縞葉枯病発生地域